＜教育報告＞

平成26年度合同臨地訓練報告第一チーム

荒川区における子育て支援サービスの活用実態と支援ニーズに関する調査

深井園子，青木則子，大竹美記，大曲美由紀

GORIN Team No.1

Survey on current situations and needs for child care support in Arakawa

Sonoko Fukai，Noriko Aoki，Miki Ootake，Miyuki Oomagari

キーワード：荒川区，子育て支援，サービス，活用実態，ニーズ，産後

I. 目的

荒川区では乳児家庭全戸訪問事業，出張育児相談，家庭訪問，４ヶ月児健診，育児学級等の事業を実施しているが，産後３ヶ月以内の母子が迅速かつ気軽に利用できる子育て支援サービスが不足していると感じている．一方で，母親の子育て支援サービスのニーズ把握や評価が不十分であった．

そこで，荒川区における産後３ヶ月以内の母子に関する子育て支援サービスの活用実態とニーズを把握するための調査を実施し，今後のよりよい子育て支援施策に役立てるための提言を荒川区に対して行う．

II. 方法

１．対象

平成26年９月11日，18日，25日の４ヶ月児健診来所の保護者約150人．

２．調査方法

４ヶ月児健診時に自記式質問票（以下「調査票」とする）による調査を実施した．

調査票の主な項目は，①対象者の属性②産後３ヶ月以内の子育て等での心配ごと③産後３ヶ月以内のサービスについて（活用状況・情報の入手方法・活用しない理由・サービスの満足度）④今後更に充実を希望するサービス⑤今後新たに必要と思う産後３ヶ月以内のサービス⑥希望するサービスの自己負担金である．

回収後，荒川区保健所で４ヶ月児健診時の対象者に実施している質問票（乳幼児健康診査来所者質問票）の一部（①普段の子どものフェイススケール②主に子育てをしている者③子育てや家事を手伝ってくれる者の有無④相談相手の有無⑤子育て者の体調⑥育児に対する気持ち⑦主な子育て者のフェイススケール）を突合した．

３．解析方法

記述統計並びに調査票の結果と乳幼児健康診査来所者質問票（主な子育て者のフェイススケール等）の関連についてχ^2検定，Fisherの正確確率検定，t検定を行った．

４．倫理的配慮

本研究は，本院倫理審査委員会の承認を得て行った．（承認番号NIPH-IBRA#12072）

III. 結果

１．回収状況

平成26年９月11日，18日，25日の４ヶ月児健診来所者151人のうち147人に調査票を配布した．回答数は147（有効回答数146）で回収率は100.0％であった．

２．対象者の背景

母親の平均年齢は32.79歳（標準偏差4.319）であった．祖父母との同居は10.3％と少なく，就労（常勤，非常勤・パート）している母親は54.8％であった．

３．産後のサービス利用状況

サービスの利用状況を図１に示す．約７割が産後３ヶ月以内に何らかのサービスを利用していた．最も多くの人が利用したサービスは親子交流サロンであった．親子交流サロン利用者は未利用者と比較すると「祖父母同居なし」（$p<0.1$），「育児や家事の支援者なし」（$p<0.05$）が有意に高かった．サービス情報の入手方法については，「あらかわきっずニュース」（在宅育児中の親子が利用で

指導教官：松繁卓哉（医療・福祉サービス研究部）
吉田穂波（生涯健康研究部）
阪東美智子（生活環境研究部）

きる区内の遊び場や行事の情報誌）が最も多く使われていた．

既存サービスへの満足度について「満足群」と「不満足群」で比較すると，「満足群」は，82％（120人），「不満足群」は８％（９人）と，約８割の人が既存のサービスに満足していると回答した．サービス利用者に限定して満足度をみると，サービス利用者のほとんどが満足と感じていた．

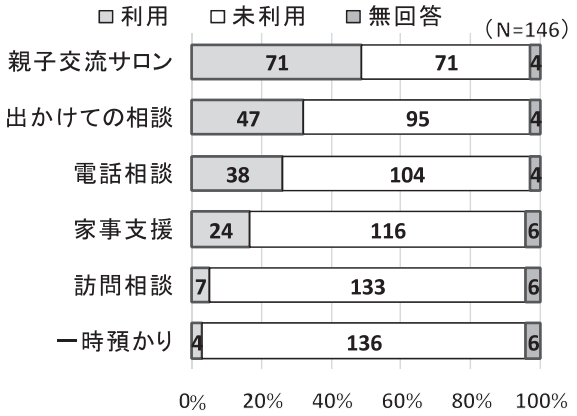

図１　各サービスの利用状況

４．産後の心配ごと

産後３ヶ月以内の心配ごとの有無によるサービス利用について，母子保健対策に関係が強い７項目を比較した結果を表１に示す．回答者の91.1％が何らかの心配ごとを抱えていた．心配ごとがあってもその問題の解消に結びつく各種サービスを利用していない者もいた．特に一時預かりの利用は２割に満たなかった．

５．就労について

表２に示す通り「就労群」(常勤，非常勤･パート)と「非就労群」（就労していない，その他）で比較を行った．

産後の心配ごととして，「やることが多くて大変」「睡眠不足」と回答した者は就労群の方が少なかった．

就労群の方が「出かけての相談」「親子交流サロン」を利用している者が多く，「出かけての相談」「訪問相談」「一時預かり」「情報提供」に関する充実を多く希望していた．また，新たなサービスを希望する者は，就労群の方が多かった．

６．既存サービスの充実希望

既存サービスの充実希望者は41.8％であった．「親子交流サロン」の充実希望者が17.1％と最も多かった．

「親子交流サロン」に対しては「定員が少ない」「参加するプログラムの増加（兄弟や父親が参加できる土日の

表１　産後３ヶ月以内の心配ごとの有無によるサービス利用（％）

	母乳・ミルクの飲み			睡眠不足			母親の体調			メンタル不調			乳房ケア			家事の時間がない			やることが多い		
	無	有	p値	無	有	p値	無	有	p値	無	有	p値	無	有	p値	無	有	p値	無	有	p値
総数（人）	78	63		88	54		108	34		117	25		103	39		106	36		107	35	
出かけての相談	28.2	39.7		37.5	25.9		31.5	38.2		34.2	28.0		25.2	53.8	***	29.2	44.4	*	31.8	37.1	
訪問相談	3.8	6.3		2.3	9.3		3.7	8.8		3.4	12.0	*	2.9	10.3	*	2.8	11.1	*	4.7	5.7	
家事援助	16.7	17.5		17.0	16.7		15.7	20.6		13.7	32.0	**	12.6	28.2	**	11.3	33.3	***	13.1	28.6	**
一時預かり	2.6	6.3		3.4	5.6		2.8	8.8		2.6	12.0		3.9	5.1		2.8	8.3		2.8	8.6	
親子交流サロン	44.9	57.1		52.3	46.3		46.3	61.8		56.0	48.8		47.6	56.4		47.2	58.3		52.3	42.9	

＊＝p＜0.1 ＊＊＝p＜0.05 ＊＊＊＝p＜0.01

表２　就労の有無による各調査項目の回答状況　（％）

		非就労群	就労群	p 値
総数（人）	（n＝146）	66	80	
産後の心配ごと	子育てに追われ一人の時間がない	24.2	20.0	
	やることが多くて大変	33.3	17.5	**
	睡眠不足	47.0	28.8	**
	心の不調	60.0	40.0	
	保育園のことについて	15.2	45.0	***
	仕事復帰について	12.1	38.8	***
総数（人）	（n＝142　無回答を除く）	65	77	
産後のサービス利用状況	出かけての相談	25.0	39.7	*
	訪問相談	6.3	3.9	
	家事支援	12.7	20.8	
	一時預かり	3.2	5.2	
	親子交流サロン	40.6	57.7	*

＊＝ｐ＜0.1　＊＊＝ｐ＜0.05　＊＊＊＝ｐ＜0.01

		非就労群	就労群	p 値
総数（人）	（n＝146）	66	80	
既存サービスの充実希望	出かけての相談	4.5	13.8	*
	訪問相談	1.5	12.5	**
	家事支援	3.0	5.0	
	一時預かり	3.0	15.0	**
	親子交流サロン	13.6	20.0	
	情報配信	6.1	16.3	*
総数（人）	（n＝129　無回答を除く）	58	71	
新たなサービスの希望	何らかの新たなサービスの希望	67.2	87.3	***
	宿泊型産後ケア施設	19.0	22.5	
	日帰り産後ケア施設	22.4	36.6	*
	ママのための教室	34.5	40.8	
	荒川区の子育てに関するサービス利用料の助成券	36.2	47.9	
	子育て経験者によるサポート訪問	10.3	11.3	

表３　新たなサービスの希望の有無による心配ごと

	宿泊型産後ケアサービス希望			日帰り産後ケアサービス希望			産後のママのための教室希望			サービス利用料の助成券			子育て経験者によるサポート訪問		
	無	有	p値	無	有	p値	無	有	p値	無	有	p値	無	有	p値
総数（人）n=129 無回答を除く	102	27		90	39		80	49		74	55		115	14	
平均年齢	32.60	34.48	***	32.29	33.46		32.83	32.35		31.97	33.55	**	32.59	33.07	
母乳・ミルクの飲み	48.1	51.9		41.1	61.5	**	41.3	57.1		56.8	34.5	**	46.1	57.1	
子が泣きやまない	7.8	14.8		7.8	12.8		7.5	12.2		16.2	0.0	***	8.7	14.3	
子の健康状態	18.6	25.9		15.6	30.8	*	17.5	24.5		17.6	23.6		18.3	35.7	
子の成長	16.7	14.8		14.4	20.5		13.8	20.4		16.2	16.4		16.5	14.3	
一人の時間がない	17.6	40.7	**	16.7	35.9	**	21.3	24.5		21.6	23.6		21.7	28.6	
やることが多い	25.5	25.9		22.2	33.3		27.5	22.4		24.3	27.3		25.2	28.6	
乳房ケア	21.6	48.1	**	17.8	48.7	***	21.3	36.7	*	27.0	27.3		25.2	42.9	
体の不調	22.5	40.7	*	18.9	43.6	**	21.3	34.7		28.4	23.6		25.2	35.7	
睡眠不足	35.3	48.1		32.2	51.3	**	31.3	49.0	*	33.8	43.6		39.1	28.6	
こころの不調	16.7	25.9		17.8	20.5		17.5	20.4		14.9	23.6		17.4	28.6	
家事の時間がない	24.5	37.0		23.3	35.9		21.3	36.7	*	21.6	34.5		25.2	42.9	
経済的不安	9.8	7.4		10.0	7.7		7.5	12.2		9.5	9.1		10.4	0.0	
保育園	31.4	34.6		28.1	41.0		30.0	35.4		25.7	40.7	*	32.2	30.8	
仕事復帰	26.5	37.0		25.6	35.9		18.8	44.9	***	23.0	36.4		27.0	42.9	

＃1　年齢についてはt検定、その他の項目についてはχ^2検定を行った。
＃2　年齢については該当した項目を選択した集団の平均年齢、その他は該当した項目を選択した割合％を示す。
＃3　* = p<0.1　** = p<0.05　*** = p<0.01

行事も含む)」「１～２ヶ月の子どもが利用しにくい」などの意見があった.

「一時預かり」に対しては「預かってくれる時間が短い」「他の日も預かる場所を増やしてほしい」「事前登録が大変．ネットから出来ると助かる」との意見があった.

７．新たなサービスの希望

今後新たに荒川区のサービス提供を希望する者は全体の69.2％（101名）であった．種類別にみると，サービス利用料の助成券（家事支援・一時預かりなど）の希望が55人と最も多かった.

新たに希望するサービスの種類と心配ごとの関連を表３に示す.「宿泊型産後ケアサービス」（$p<0.01$）「サービス利用料の助成券」（$p<0.05$）希望者は，希望しない者と比較し平均年齢が有意に高かった.

「日帰り産後ケア施設」希望者では，「乳房ケア」などの母親自身の体調や「母乳・ミルクの飲み」などの心配の割合が有意に高かった.

IV．考察

親子交流サロンは，核家族や，育児支援者・相談相手がいない者の利用割合が高く，母子保健対策において重要なサービスと言える.

一時預かり等のサービス利用は少なく，特に母親の「睡眠不足」は母親自身の問題で対処の優先順位が低い等の理由が考えられる．母親の健康維持のため，育児負担を軽減するサービス利用について，今後，各サービス未利用の要因に踏み込んだ更なる研究が必要と考える.

就労群は近隣との付き合いが少なく，産後や育児のことについて身近に相談できる相手がいないと推察され，そのため，対面で相談できる機会や子どもを一時的に預かってもらえる場所や情報提供を求めているのではないかと考えられる.

既存サービスにおいては，サービスの開設箇所や定員の増加，利用の時間や曜日の拡大，簡易な手続き，安心して預けられる質の担保など充実を検討する必要がある．親子交流サロンによって実態が異なることも考えられるため，今後，各親子交流サロンに対する更なる調査が必要である.

新たなサービスにおいては，「サービス利用料の助成券」によりすぐに気軽に利用でき，利用時間や定員を柔軟にするなどの対応も必要と考える.

「日帰り産後ケア施設」希望者は，育児面や母親の乳房ケアを含めた体調面に関する心配を抱えている傾向があり，母子共に心身ケアを受けられる場の確保が大事であると考える．また，「宿泊型産後ケア施設」を希望する割合は高齢出産者において高く，宿泊型のケアについても検討の余地があると考える.

V．フィールドへの提言

上記の考察を通して，以下の点についてフィールドに提言を行った.

１．睡眠不足など母親自身の心配ごとに着目した支援の検討
２．既存サービスの充実
　(1) 親子交流サロンの充実
　プログラムの種類や定員枠の拡大など，ニーズに応じた利用しやすい環境の整備

(2) 一時預かりサービスの充実
利用時間の拡大，手続きを簡易にするなど利便性の向上
(3) 専門家に直接相談できる機会や場所の充実

3．新たなサービスの検討
(1) 母子が気軽に心身ケアを受けられる場の確保（サービス利用料の助成券，日帰り産後ケア，産後ママのための教室など）
(2) 宿泊型産後ケアサービスについて検討

4．情報発信の工夫
(1) 情報を効率的に把握できるような周知方法の検討（あらかわきっずニュース，荒川区子育て応援サイトの活用）
(2) 保健師による周知の継続
(3) 仕事復帰に有用な情報提供

VI. 今後の課題

1．乳幼児健診等の機会を利用し，各種サービス未利用の要因について踏み込んだ調査を行い，サービスの充実を図っていく．
2．親子交流サロンの利用者の実情や環境など，各サロン別に更なる調査が必要である．
3．就労状況の実態を正確に把握し，既存のサービスの充実，新たなサービスの検討を行っていく．
4．今回の調査目的ではない虐待リスクの高い家庭への支援について評価を行っていく．

謝辞

今回の調査を実施するにあたり，ご協力及び研修の場を提供していただきました，荒川区保健所の皆様に深く感謝いたします．

また，お忙しい中，調査にご協力くださいました４ヶ月児健診来所者の皆様へ併せて厚くお礼申し上げます．

文献

[1] 荒川区．http://www.city.arakawa.tokyo.jp/kusei/gaiyo/chisei.html
[2] 福島富士子，みついひろみ．産後ケア なぜ必要かなにができるか．岩波ブックレット．2014;896:9.
[3] 荒川区．あらかわ子育て応援ブック．平成26年７月.
[4] 荒川区．あらかわ区報きっず．平成26年６・７月号.
[5] 荒川区．あらかわ子育て応援サイト．http://www.city.arakawa.tokyo.jp/kosodate/